

基礎病理実習

責任者名：浅野 正岳

学期：前期

対象学年：3年

授業形式等：実習

◆担当教員

浅野 正岳(病理学 教授)

福井 怜(病理学 助教)

角田 麻里子(病理学 助教)

山本 安希子(病理学 助教)

木所 義博(病理学 兼任講師)

小田 泰之(病理学 兼任講師)

斎藤 学(病理学 兼任講師)

藤田 裕(病理学 兼任講師)

渡辺 孝夫(病理学 兼任講師)

白野 隆史(病理学 兼任講師)

金子 泰英(病理学 兼任講師)

阿部 成宏(病理学 兼任講師)

北野 太一(病理学 兼任講師)

小宮山 一雄(特任教授)

◆一般目標 (GIO)

病気の本態, 原因, 経過などを正しく理解するために, 組織像から読み取る力を養い, 臨床に応用できる力を身につける。

◆到達目標 (SBOs)

- ・病気の本態, 原因, 経過を正しく説明できる。
- ・種々の疾患を臓器別に分類できる。
- ・正常組織との違いを理解した上で, 病気の組織像を理解し, 臨床所見・症状との関連を述べることができる。

◆評価方法

成績は, 毎回の実習成果物(40%)と平常試験(60%)で評価する。

実習成果物は決められた期日までにオンラインにて提出するものとする。

平常試験後にフィードバックを行なう。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
浅野 正岳	水曜日 17:00~18:00 本館 6階病理学講座	deby20261@g.nihon-u.ac.jp	メールにて随時対応

◆授業の方法

指定した教科書のどこに何が記載されているのかを明確に示しつつ、板書、スライドを併用して授業を進める。また、必要に応じてプリントを配布し、理解を深めさせる。実習室で対面授業を受けた後、各々ネット環境が安定している場所にてバーチャルスライドを見てスケッチし、それを成果物としてオンライン提出する。質問は実習時間内に限り、deby20261@g.nihon-u.ac.jp で受け付ける。「総検」の時間では実際に顕微鏡を用いて顕鏡し復習する。また第 15 回に平常試験を行う。平常試験後にフィードバックを行なう。

【実務経験】

浅野正岳：病理学講座における教員歴 30 年。病理診断をしている歯科医師の立場から、口腔以外に発症する病気・病態についての理解を深めてもらいたいと考えている。

福井 怜：病理学講座における教員歴 5 年。口腔病理専門医。本学歯学部附属病院および市中総合病院においての実務経験を活かし、口腔だけでなく全身に発症する病気・病態について分かりやすく説明する。顕微鏡を通して、細胞レベルでの変化・所見と臨床症状を紐づけながら病態を学ぶ場を提供したいと考える。

角田麻里子：病理学講座における教員歴 3 年。本学歯学部附属病院病理診断科で口腔の病理診断に携わる立場からわかりやすく説明する。

山本安希子：本学病理学講座における教員歴 1 年。口腔病理専門医。他大学での教育歴、病理診断科での実務経験からわかりやすく説明する。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	標準病理学 第 5 版	坂本 穆彦 北川 昌伸 仁木 利郎	医学書院	2015
実習書	基礎病理学実習書	日本大学歯学部病理学 講座編		2020
参考書	組織学・口腔組織学 第 4 版	磯川桂太郎 稲井哲一朗 中村雅典 山本仁 渡邊弘樹	わかば出版	2014

◆DP・CP

・DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的思考ができる。

・CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断力を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に指定の参考書等を読んで、実習項目の疾患を理解しておくこと。

病理組織形態については指定の教科書、参考書を参照し、必要であれば適宜、病理組織アトラス等を参照すること。

◆準備学習時間

各々講義時間相当を充てて正常組織の確認および実習書に記載されている基本的事項の予習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

基礎病理（3年前期）

臨床口腔病理（3年後期）

臨床口腔病理実習（3年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 3	A B	4.6 4.6	1 ～ 3 1 ～ 3	【遠隔】 「講義1」 遠隔] 2. 細胞の損傷2 3) 傷害の形態変化 (2) 萎縮 (3) 細胞死 (教) pp.16-30 2. 細胞の損傷3 4) 組織修復・再生 (1) 創傷治癒 (2) 再生 (3) 幹細胞 5) 進行性変化 (1) 肥大 (2) 過形成 (教) pp.16-30 3. 炎症1 1) 炎症とは (1) 定義 (2) 原因 (3) プロセス	・細胞の萎縮について理解する。 ・細胞死の種類について学ぶ。 ・アポトーシスとその機序について学ぶ。 ・創傷治癒のメカニズムについて学ぶ。 ・再生の概念について学ぶ。 ・幹細胞の存在と概念について理解する。 ・進行性変化について学ぶ。 ・肥大について理解する。 ・過形成と具体的な病変について学ぶ。 ・炎症の定義を説明できる。 ・炎症の物理的、化学的、生物学的原因について説明できる。 ・炎症のメカニズムについて説明できる。 ・炎症性細胞の種類について説明できる。 ・種々のケミカルメディエーターについて説明できる。 ・ケミカルメディエーターの作用について説明できる。 ・炎症の形態学的特徴について理解する。 ・炎症の分類について学ぶ。	浅野 正岳	C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮

4 ～ 6	A B	4.13 4.13	1 ～ 3 1 ～ 3	<p>【遠隔】</p> <p>「講義2」</p> <p>3. 炎症4</p> <p>4)急性炎症</p> <p>5)慢性炎症</p> <p>(教) pp.43-53</p> <p>3. 炎症5</p> <p>6) 特異(肉芽)性炎</p> <p>(教) pp.58-60</p> <p>4. 循環障害1</p> <p>1)循環系の構造と機能</p> <p>2)水腫</p> <p>3)充血とうっ血</p> <p>4)出血</p> <p>5)血栓症</p> <p>6)塞栓症</p> <p>(教) pp.161-176</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・急性炎症の特徴について学ぶ。 ・慢性炎症の特徴について学ぶ。 ・急性炎症・慢性炎症の相違について学習する。 ・結核, 梅毒, ハンセン氏病など特殊な肉芽腫を形成する病変について学ぶ。 ・循環系の種類と構造について説明できる。 ・循環系の機能について説明できる。 ・水腫, 充血, うっ血などの基礎について説明できる。 ・出血とは何かについて説明できる。 ・血栓および血栓症について説明できる。 ・塞栓および塞栓症について学修し, 血栓との関係について説明できる。 	浅野 正岳	C-5-5) 炎症
7 ～ 9	A B	4.20 4.20	1 ～ 3 1 ～ 3	<p>【遠隔】</p> <p>1. 正常組織</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡検に際し, 必要不可欠な正常の全身の各臓器の組織像について再確認する。 	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 小宮山 一雄 山本 安希子 兼任講師	C-3-4) 身体を構成する組織と器官
10 ～ 12	A B	4.27 4.27	1 ～ 3 1 ～ 3	<p>【対面】</p> <p>2. 代謝障害 (退行性病変①)</p> <p>1)硝子滴変性 (腎)</p> <p>2)脂肪変性 (肝)</p> <p>3)動脈硬化症</p> <p>4)うっ滞性黄疸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・尿細管上皮細胞に生じる硝子滴変性を観察し,腎ネフローゼを理解する。 ・脂肪肝の標本で,実質臓器である肝の脂肪変性を学ぶ。 ・動脈硬化症の標本により,アテローム (粥腫) を理解し,局所における細胞の反応を観察する。 ・うっ滞性黄疸の標本により,ビリ 	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 山本 安希子 兼任講師	C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮

					ルビンの代謝障害を観察する。		
13 ～ 15	A B	5.11 5.11	1 ～ 3 1 ～ 3	【対面】 3. 循環障害（退 行性病変②）と細 胞の反応性増殖 （進行性病変） 1)心筋梗塞（急 性・陳旧性） 2)脳梗塞 3)血栓症 4)肝硬変	・心筋梗塞,脳梗塞の組織標本を通 じ,梗塞とは何か,梗塞による虚血性 病変の組織像について理解する。 ・血栓症の標本を通して,血栓が形 成される病的現象を理解し観察す る。 ・肝硬変の標本では,慢性経過によ り肝細胞の破壊と修復が種々の程度 に起こっている状態を観察し,その 基本が肝小葉にあることを確認し, 偽小葉の大きさによる肝硬変症の分 類を理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里 子 山本 安希 子 兼任講師	C-5-2) 細胞 傷害、組織傷 害及び萎縮
16 ～ 18	A B	5.18 5.18	1 ～ 3 1 ～ 3	【対面】 4. 炎症① 1)気管支肺炎 2)腎膿瘍 3)虫垂炎 4)胃潰瘍	・気管支肺炎の標本では,細菌感染 による化膿性炎が末梢の気管支を中 心に広がる状態を観察する。 ・実質臓器の化膿性炎として化膿性 腎炎を,リンパ性組織の化膿性炎と して虫垂炎を観察し,化膿性炎の組 織像を理解する。 ・潰瘍の定義を理解し,胃潰瘍の標 本を通して炎症の経過を理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里 子 小宮山 一 雄 山本 安希 子 兼任講師	C-4-2) 免疫
19 ～ 21	A B	5.25 5.25	1 ～ 3 1 ～ 3	【対面】 5. 炎症②・感染 症 1)カンジダ症 2)放線菌症 3)肺結核・粟粒結 核 4)サルコイドーシ ス	・感染症としてカンジダ症と放線菌 症,の組織像を観察する。 ・肺結核・粟粒結核とサルコイドー シスの標本を通して特異性炎を理解 する。	福井 怜 角田 麻里 子 山本 安希 子 小宮山 一 雄 兼任講師	C-5-5) 炎症
22 ～ 24	B A	6.1 6.1	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 総検 1 (第 1 回～第 21 回 の内容)	第 1 回～第 21 回までの標本の見直 しを行う。さらに、重要疾患につい て実際に顕微鏡にて顕鏡する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里 子 山本 安希 子 兼任講師	

25 ～ 27	B A	6.8 6.8	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 6. 腫瘍① 1)乳頭腫 2)上皮内癌 3)扁平上皮癌 4)大腸癌	・口腔内に発生する良性腫瘍,悪性腫瘍の組織標本を通じ,口腔粘膜の異形成,異型性,癌胞巢の形成,増殖の形態,転移など基本的組織像について理解する。 ・扁平上皮癌と大腸における腺癌の標本を観察し,それぞれの発生した上皮組織に類似する癌腫の形態像について理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 山本 安希子 兼任講師	C-5-5) 炎症
28 ～ 30	B A	6.15 6.15	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 7. 腫瘍② 1)毛細血管腫・海綿状血管腫(肝臓と皮膚) 2)平滑筋腫 3)肝細胞癌	・血管腫は過誤腫(組織奇形)であることを知り,その種類,組織像を理解する。 ・平滑筋腫の標本を観察し,良性腫瘍の組織像を理解する。細胞学的分化度の高い良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを再確認する。 ・特異な構造を持ち,一定の臓器に類似を示す肝癌(肝細胞癌)の形態像を理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 山本 安希子 兼任講師	C-5-6) 腫瘍
31 ～ 33	B A	6.22 6.22	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 8. 腫瘍③ 1)癌のリンパ節転移 2)悪性リンパ腫 3)ホジキンリンパ腫 4)骨肉腫	・肉腫と呼ばれる悪性非上皮性腫瘍の組織標本を通じ,基本的組織像について理解する。 ・リンパ腫について理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 小宮山 一雄 山本 安希子 兼任講師	C-5-6) 腫瘍
34 ～ 36	B A	6.29 6.29	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 9. その他の腫瘍 1)色素性母斑 2)神経鞘腫 3)悪性黒色腫	・色素性母斑は過誤腫(組織奇形)であることを知り,その種類,組織像を理解する。 ・悪性黒色腫について理解する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 小宮山 一雄 山本 安希子 兼任講師	C-5-6) 腫瘍
37 ～	B A	7.6 7.6	1 ～	【対面】 10. 自己免疫疾患	・橋本病の標本から浸潤したリンパ球が甲状腺濾胞を破壊し,異物型巨	浅野 正岳 福井 怜	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患

39			3 6 ～ 8	1) バセドウ病 2) 橋本病 3) シェーグレン症候群	細胞がコロイドを貪食している像を観察して、自己免疫疾患について理解する。 ・シェーグレン症候群において唾液腺でみられる変化を観察して、その病態を理解する。	角田 麻里子 小宮山 一雄 山本 安希子 兼任講師	
40 ～ 42	B A	7.13 7.13	1 ～ 3 6 ～ 8	【対面】 総検2 (第25回～第39回の内容)	第25回～第39回までの標本の見直しを行う。さらに、重要疾患について実際に顕微鏡にて顕鏡する。	浅野 正岳 福井 怜 角田 麻里子 山本 安希子	
43 ～ 45	A B	7.20	9 ～ 9	【対面】 平常試験	実習内容の理解度の確認及び習熟を図る。組織像をみて設問に答える記述式の試験を行う。また試験終了後、解説・フィードバックを行う。 7月20日水曜日 17:00～	福井 怜 角田 麻里子 山本 安希子	

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
兼任講師	3000053	小田 泰之
	3000054	木所 義博
	3000055	斎藤 学
	3000056	藤田 裕
	3000057	渡辺 孝夫
	3000058	白野 隆史
	3000059	金子 泰英
	3000535	阿部 成宏
	3000536	北野 太一

